

# 阪大分会ニュース

関西単一労働組合大阪大学分会  
 大阪市淀川区十三東 3-16-12 TEL&FAX:06-6303-0449  
<http://handaibunkai.xxxxxxxx.jp/>  
 E-mail:handaibunkai@yahoo.co.jp

あらゆる相談受付中！！

正規・非常勤・派遣・委託など1人でも  
 入れる組合です

## 長期非常勤職員の2015年解雇阻止！ 11月9日の団交に結集し、 阪大の雇用責任を追及しよう！

### 9月30日・団交に応じさせろぞ！

阪大は、特例職員制度と引き換えに長期非常勤職員に通知した2015年解雇のお知らせに関する団交を、2010年1月21日をもって拒否した。とりわけY組合員が特例職員になって以降は「関単労には『お知らせ』に利害関係をもつ組合員は存在しない」として、団交議題とすることも拒否したのだった。私たちは阪大の不当な主張を認めることはできないが、長期非常勤職員である石橋組合員の存在を明らかにすることによって、阪大はやっと団交に応じた。

団交にあたって、私たちは石橋組合員の要求は2015年3月末以降も現在の職場で働き続けたいことであるから、その要求をふまえて「お知らせ」について改めて交渉することを要求した。しかし、阪大は9月26日付「回答」において、『当分の間』の終期を含めて『決定』を撤回する考えは現時点では大学にはなく、石橋組合員についてのみ異なる取り扱いをする考えもない」として、石橋組合員の要求を門前払いする不当な態度を示したのであった。

**「40年先、50年先のことなんて約束できない……終期を決めることが雇用責任を果たすことである」  
 発言を弾劾する！**

30日の団交で、阪大は「いつまでも『当分の間』の形で不安定にしたままで雇用を続けることは、雇用者としての責任をとっていないことであって、終期を決めることが雇用責任を果たすことである」と発言した。長期非常勤職員を解雇することが大学の責任であると平然と言い放ったのだ。すぐさま組合側出席者から「当事者を目の前にして、よくそんなことが言えるな」「雇用し続ける義務が雇用者にはあり、無責任だ」と次々と怒りの声が沸き上がった。

さらに、阪大は「2015年3月末の労働契約満了は退職であり、解雇ではない」と繰り返し言い張った。しかし、どのように言い繕うと、それは正当な理由のある解雇ではなく、長期非常勤職員の労働権を奪うばかりか生存権をも奪う暴挙なのだ。このような回答は断じて認めることはできないと、私たちは厳しく阪大当局に抗議した。

### 学内外の仲間とともに、2015年解雇阻止を闘うぞ！

当日の団交は、学内外の闘う仲間たちの力強い支援を得て熱気溢れる団交をやりきり、阪大当局に2015年解雇阻止を闘う私たちの決意を見せつけた。11月9日、私たちは引き続き阪大当局に団交に応じさせた。長期非常勤職員のみなさん、団交に参加し、積年の怒りを阪大にぶつけ、長期非常勤職員の継続雇用を勝ち取ろうではありませんか！

#### 団交に出てみよう！ おもしろいよ！！

日時：11月9日（水）午前9時～10時／場所：コンベンションセンター1F 会議室

要求内容

- (1) 石橋組合員に対する2015年3月31日付け労働契約満了を理由にした退職を撤回し、2015年4月1日以降の継続雇用を保障すること。
- (2) 長期非常勤職員全員を石橋組合員と同様に扱い、雇用継続をすること。



# 初めての同交

私はずっと、正面に向かって鋭い視線を送っていた。けれど、その視線は、どこにも届くことはなかったようだ。1時間もの間、ただの1度も、大学は真正面にいる当事者を見ようとはしなかったのだ。いったい大学はどこを見ているのだろう。問題は、"今(Now)" "ここに(Here)"あるというのに。この場にたくさんの当事者がいれば、とてつもなく面白くなる。いったい、どこを(誰を)見てくれるだろうか？

大学は「雇用の終期を決めること」を「雇用責任」と言い放った。「将来のことは分からない。業務が継続しているかさえ分からない。分からないものは約束しない」とも。確かに分からないけど、図書室の業務は継続していく可能性は高い。ということは、また新しい人を採用するのだ。

図書室の業務は、単に貸出・返却だけではない。特にカウンターは、図書室の"よろず相談所"的役割も担っている。様々な身分の利用者が色々な疑問・難問を投げってくる場所。どんな質問が飛んでくるのか、予想はつかない。それでも「分かりません」などとは言うてはいけない。意外と経験が求められる現場なのだ。

だから、経験が浅い時期は、カウンターは新旧2人で担当する。とすると、職員が入れ替わると、数ヶ月は有休が取れなくなる。それは「取れる」けど「取らない」場合とは、緊張感が違う。

ここ数年、そんな春が続いている。次の春も「任期満了」で、経験ある職員が職場を去っていく。緊張感の高い春がまたやってくる。大学が「雇用責任」を果たすために決められた「雇用期限」。「雇用責任」のために、私たち(非常勤職員)が職を失う??こんな主張を認めるわけにはいかない。

皆さんの切実な"想い"を届けたい。  
人與人を繋ぐのは"言葉"。"想い"を言葉にして。  
そうして、雇用継続の道を拓いていこう!!  
(人科図書室・石橋)

## 非正規労働者の談話室

2015年解雇阻止の闘いと、2012年3月末雇止め解雇攻撃に直面している短期非常勤職員の人たちとの闘いを一つのものとして取り組んでいます。

ひとりで悩まず、いつでも相談においでください。

- 日時 11月24日(木) 中一会議室
- 12月15日(木) 中二会議室
- 01月19日(木) 中三会議室
- いずれも午後6時~9時
- 場所 豊中市立千里公民館 (豊中市千里文化センターコラボ内)
- アクセス 北大阪急行または  
モノレール・千里中央駅下車

阪大の非常勤差別に満ちた専制的で非民主主義的強権的なやりかたを絶対に認めることはできない。関西圏大学非常勤講師組合の削減案全面撤回要求の闘いに連帯し共に闘っていきましょう！

阪大の「非常勤職」大リストラ合理化攻撃を闘おう！

## 阪大リストラ提案

### 外国語学部の非常勤講師3年でゼロ

4年前に大阪外国語大学が統合されてきた大阪大学外国語学部で、教育担当理事から、同学部の非常勤講師を3年でゼロにするリストラの提案が出された。講師が担ってきた年間900コマ以上の授業がなくなる。教職員組合は「教育の質が維持できない」と反発を強めている。

大阪大の東島清副学長兼理事が19日に提案した。外国語学部は、モンゴル語やインドネシア語など25の専攻語を使ってその国の歴史や文化を学べるのが特色で、そのほとんどが英語の授業を非常勤講師が担い、今年度は915コマの授業を行ってきた。だが大阪大は2004年の法人化以

降、一般教養に当たる全学共通教育科目以外では原則として非常勤講師は雇用していないことから、「基準にならない、非常勤講師は3年をめどにゼロにしたい」と提案した。

これに対し、教職員組合は24日、「外国語学部は各言語10~40人の少人数編成で、非常勤講師なしでは運営できない」という主張を抗議声明を出した。削減計画を知った学生にも動揺が広

がる。1年の女子非常勤講師の待遇を除き、大阪大が外国語学部の非常勤講師を3年間でゼロにするリストラ提案を受け、1年間の削減に同意した。東島理事は「4年間で24%削減する案で、他学部150コマが2016年度に削減される」と述べ、削減される150コマは、現在、100コマの非常勤講師が担当している。削減される150コマは、現在、100コマの非常勤講師が担当している。削減される150コマは、現在、100コマの非常勤講師が担当している。



大阪大学外国語学部非常勤講師を4年間で24%削減するという学部案は、2年前から検討されていたにもかかわらず、削減対象の非常勤及び関西圏大学非常勤講師組合に対し、大学からも学部からも箕面地区教職員組合からも何の説明はおろか情報すら与えられませんでした。また、科目削減の直接の影響を受ける学生に対しても、何の説明責任も果たされていません。このような、当事者を最初からかやの外に置くやり方で合意された削減案に対し、全面撤回と非常勤講師と学生への説明責任を、非常勤講師組合は要求します。  
(関西圏大学非常勤講師組合・新屋敷委員長)